



赤い猪

稲羽からの帰り道、手間山のふもとまでくると、八上比売をめとることのできなかつた兄弟神たちは、比売と結ばれた大国主命を憎くおもつて、命を殺そうとしました。畑を荒らす赤い猪を、一緒に退治しようと思ひかけ、山のふもとで待ちうける大国主命めがけて、猪に似た大きな石を真つ赤に焼いて転がり落したのです。

『ドドドド』轟音とともに落ちて来る石を、必死で捕まえようとした命は、大火傷を負つて息絶えました。

嘆き悲しんだ母神は、高天原の神産巢日神に助けをもとめられました。

そこで遣わされた蛭貝比売と蛤貝比売が作られた母の乳汁を塗ると、たちまちのうちに、命は一層の美しい姿で甦りました。

兄弟神たちの度重なる生命に関わる仕業に、母神が思いつかれたことは、ご先祖の須佐之男命に知恵を授けていただくことでした。

その教えのままに大国主命は、須佐之男命を探し求めて根の国へ向かわれたのです。

*蛭貝比売と蛤貝比売が作られた母の乳汁

蛭貝は赤貝、蛤貝はハマグリのこと。ここで言う母の乳汁とは、ハマグリの出す汁に貝殻を削った粉を混ぜたもので、古くは火傷薬として使用されていた。